

那須塩原市水道事業基本計画 (水道事業ビジョン及び経営戦略)

【改定版・概要】

令和4年3月

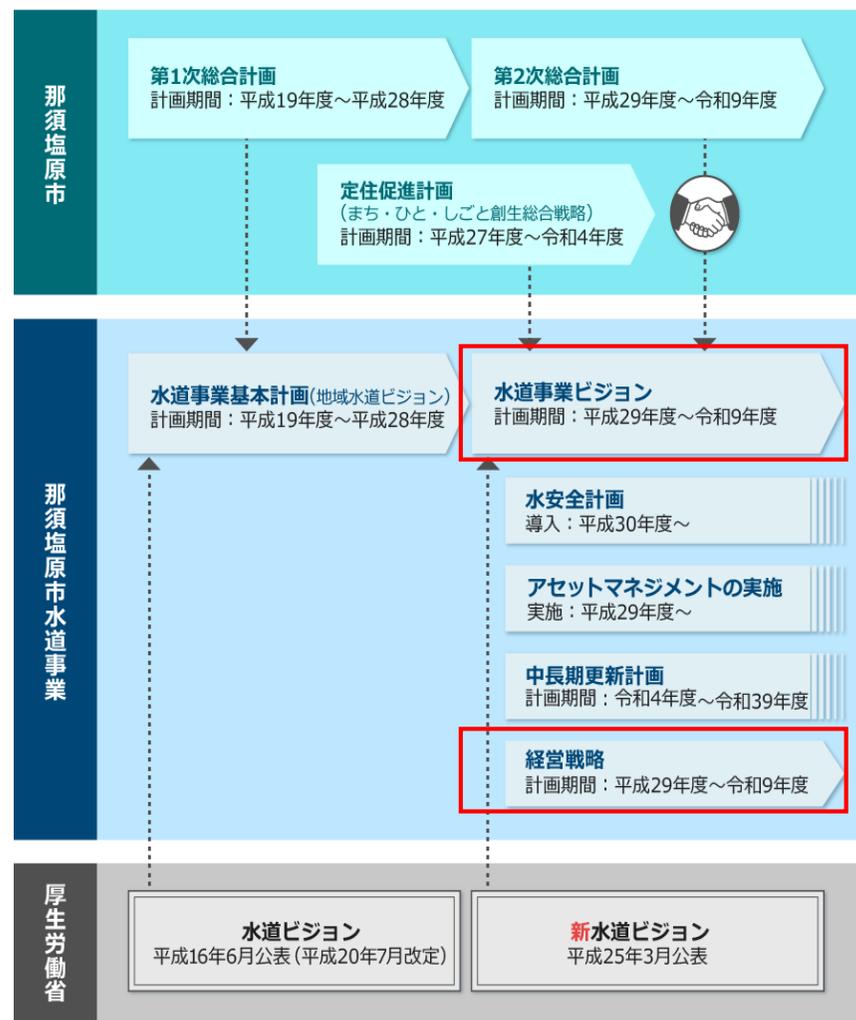
1 改定の趣旨

本市水道事業の事業計画である「水道事業ビジョン」、その計画期間中の投資・財政計画である「経営戦略」をそれぞれ平成28(2016)年及び平成29(2017)年に策定しました。

その後、気候変動影響の顕在化や新型コロナウイルス感染症蔓延など社会情勢は大きく変化し、本市においても新たな課題が浮き彫りとなってきたことから、計画期間中間年度である令和3(2021)年度に改定を行うものです。

2 計画期間

本市の第2次総合計画と整合性を図り、計画期間を1年延長し、平成29(2017)年度～令和9(2027)年度までの11年間としました。



那須塩原市水道事業ビジョン及び経営戦略の位置付け

3 現状と課題

安全な水の供給

一部地域の原水にクリプトスポリジウムの指標菌が検出されたことを受け、水質検査の徹底・精度向上や浄水処理の検討の必要性が生じてきています。

水道施設の老朽化

本市の水道施設には、昭和9(1934)年に竣工した鳥野目浄水場を始めとして昭和初期～中期に建設してきたものが多く、施設の老朽化が進んでいます。また、耐震基準を満たす施設が少なく、耐震化への早急な取組が必要とされています。

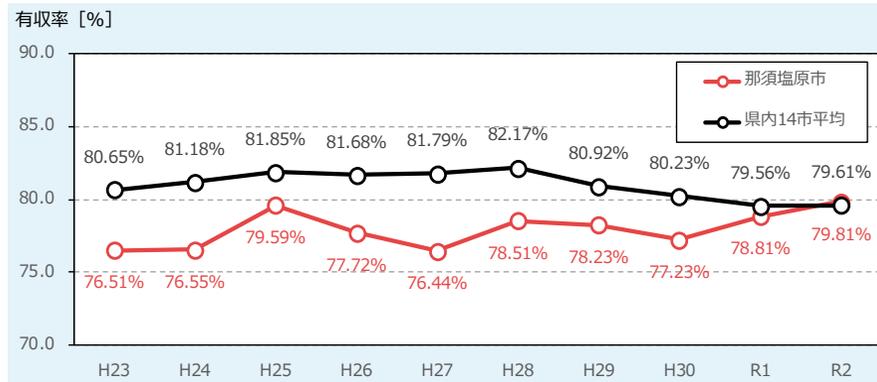


鳥野目浄水場 緩速ろ過池
(昭和9年竣工)

持続可能な経営

本市の有収率は依然全国平均を下回ることから、早急な原因究明及び対策が求められます。また、近年頻発かつ激甚化する自然災害などの気候変動影響への対応や脱炭素社会に向けた取組についても検討が必要です。

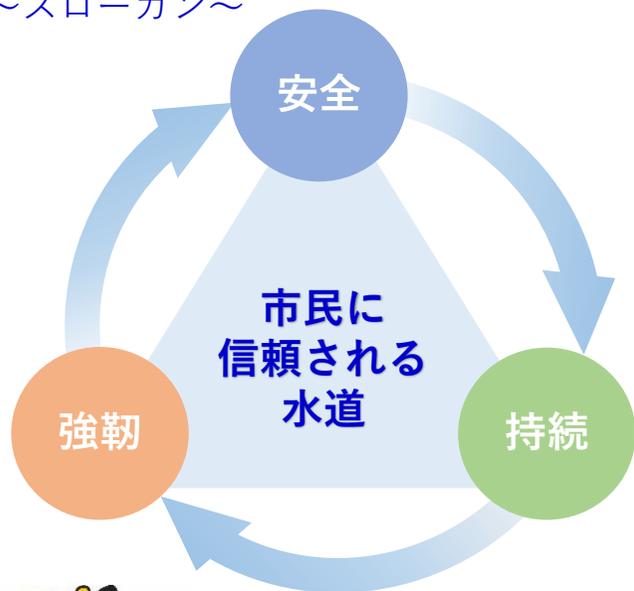
財政面においては、人口減少に伴い給水収益が減少する一方、施設更新や耐震化も重要な施策となっていることから経営健全化への取組を続けていく必要があります。



有収率の推移

4 将来像

～スローガン～



©みるひい 那須塩原市

5 実現方策

「安全」「強靱」「持続」の3つの観点から次のとおり10の基本目標、23の方策を定めました。

また、水道事業はSDGs（持続可能な開発目標）が掲げる複数のゴール（目標）に深い関わりを持っていることから、次に示すSDGsを意識して施策・事業に取り組みます。

- | | |
|--|----|
| 1.安全な水質の維持（2）
2.給水装置に対する安全性の確保（2） | 安全 |
| 3.緊急時に備えた危機管理体制の再構築（4）
4.水道施設の耐震性の確保（2） | 強靱 |
| 5.水道施設資産の適正管理（2）
6.施設規模の適正化（1）
7.お客様サービスの向上（1）
8.効率的な事業運営（5）
9.健全な経営（2）
10.脱炭素社会に向けた取組（2） | 持続 |

※()内は方策の数



実現方策の実施予定スケジュール

基本目標	実現方策	予定事業	予定時期
安全 安全でおいしい水の供給			
1.安全な水質の維持	(1)原水水質に適した浄水処理	浄水処理の検討	
		・適切な水質検査の実施	継続実施
		・クリプトスポリジウム対策の強化	H29～
		・異常水混入防止	H29～R2
	・高濁度発生対策の強化	H29～R3	
	(2)水安全計画の策定	水安全計画の策定	H29～R1
2.給水装置に対する安全性の確保	(1)指定給水装置工事事業者に対する指導の継続実施	的確な指導の継続	継続実施
	(2)銅製給水管の更新	銅製給水管の更新	H29～R2

※ 部分
 →改定時に新たに追加したもの及び進捗管理しやすいよう、既存の事業を細分化、事業化したものを示します。

※ 赤字部分
 →改定時に予定時期を変更したものを示します。

実現方策の実施予定スケジュール

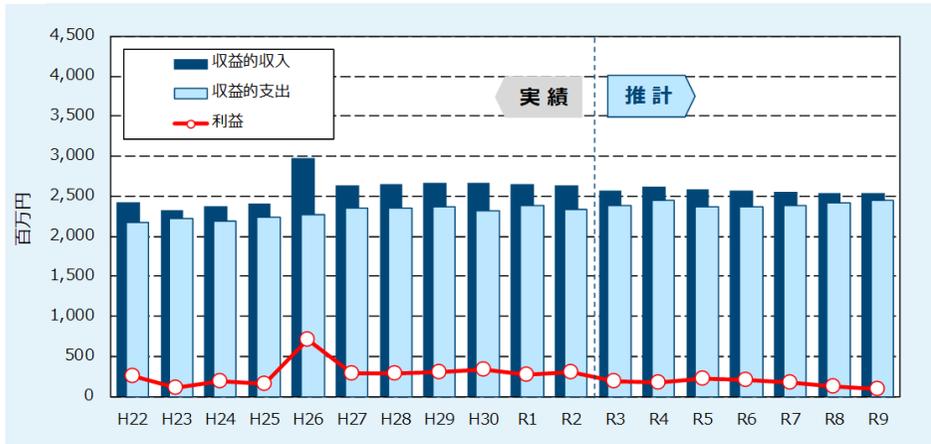
基本目標	実現方策	予定事業	予定時期	
強靱 災害に強い水道施設の構築				
3.緊急時に備えた危機管理体制の再構築	(1)応急給水・復旧体制の強化	備蓄計画の策定	H29～R1	
		事前行動防災計画	H29～R1	
	(2)外部からの水道施設への侵入防止対策強化	外周フェンスの整備		
		・不適正なフェンスの更新	H29～H30	
		・点検・保守	継続実施	
		監視システムの更新	継続実施	
	(3)災害時の協力体制の強化	緊急時対応訓練の実施（1回/年）	継続実施	
(4)水源汚染・事故リスクの分散	北那須水道受水施設の強化 （関谷・大貫金沢・宇都野）	H29～		
4.水道施設の耐震性の確保	(1)基幹施設の耐震化	浄水施設の耐震化		
		・鳥野目浄水場	H30～R9	
		・千本松浄水場	R9～	
		・要害浄水場	R9～	
		・曇沼浄水場	施設廃止	
		配水施設の耐震化		
	・鳥野目第3配水池	H29～R3		
	・要害配水池 他3池	R9～		
	・鳥野目第1配水池	施設廃止		
	(2)管路の計画的更新	管路更新計画の作成、計画に基づく更新工事の実施	H29～R9	

実現方策の実施予定スケジュール

基本目標	実現方策	予定事業	予定時期
持続 適正な資産管理に基づいた、社会の変化に対応可能な水道事業経営の確立			
5.水道施設資産の適正管理	(1)アセットマネジメントの実施	中長期更新計画の策定	H29～R3
	(2)情報の電子化と共有化	マッピングシステムの精度向上	H29～H30
		図面の電子化	H29～H30
		情報通信技術の活用	R3～R9
6.施設規模の適正化	(1)将来の地域ごとの水需要の動向の変化を踏まえた適正な施設規模への再編成	施設更新にあわせた施設規模の見直し	継続実施
7.お客様サービスの向上	(1)積極的な広報活動	ホームページ、広報紙等の改善	継続実施
8.効率的な事業運営	(1)有収率の向上	計画的な管路更新	継続実施
		漏水箇所早期発見と効果的な修繕	継続実施
		専門性の高い人材の確保	継続実施
	(2)水道事業の継続性の確保	民活手法の導入効果の研究	継続実施
	(3)官民連携の推進	庁内研修会の開催（5回/年）	継続実施
	(4)技術の継承	北那須3市町広域連携推進事業等の推進	H29～R9
9.健全な経営	(1)中長期的な財政見通し	経営戦略の策定及び事後検証	継続実施
	(2)経費削減及び収入の確保	口座振替の促進	継続実施
		新たな収入の確保	R4～R9
10.脱炭素社会に向けた取組	(1)省エネルギーの推進	施設更新にあわせた脱炭素社会への取組	継続実施
		電気自動車等の導入	R7～R9
	(2)再生可能エネルギーの活用	再生可能エネルギー導入方法の研究	R4～R9

6 事業化計画

計画期間における財政見通し（＝経営戦略）では、多額の事業費が予想されるものの、現行料金体系を維持できる見込みとなっています。しかし、計画期間終了後に赤字へ転じることが見込まれるため、適正な時期に料金改定を行う必要があります。



収益的収支の推移



資本的収支の推移

今後は、実現方策の達成度を評価するKPI（重要業績評価指標）を毎年試算し、事業の進捗状況を把握するとともに、経営戦略についてもおおむね3年ごとに妥当性の検証を行い、必要に応じ見直しを行うことで経営の安定化を目指します。

